

中間評価（表紙）

湯前町 歴史的風致維持向上計画（平成29年3月17日認定）
中間評価（平成29年度～令和3年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の維持保全・伝統を反映した人々の活動	3
II まちなみと景観形成・歴史的資源を生かした観光振興と情報発信	4
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 歴史まちづくりに関する住民意識の向上	5
ii 歴史まちづくりに関する情報発信	6
iii 歴史まちづくりに関する観光入込数	7
iv その他の波及効果	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 御大師堂修繕事業	9
B 歴史的風致形成建造物保全整備事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 里宮神社の祭礼行事に見る歴史的風致	11
2 相良三十三観音巡りに見る歴史的風致	12
3 幸野溝と球磨焼酎に見る歴史的風致	13
■ 庁内体制シート（様式6）	14
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	15
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	16

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	里宮神社の祭礼行事に見る歴史的風致	I・II	
2	相良三十三観音巡りに見る歴史的風致	I・II	
3	幸野溝と球磨焼酎に見る歴史的風致	I・II	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物の維持保全 ・ 伝統を反映した人々の活動		
II	まちなみと景観形成 ・ 歴史的資源を生かした観光振興と情報発信		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	歴史まちづくりに関する住民意識の向上		
ii	歴史まちづくりに関する情報発信		
iii	歴史まちづくりに関する観光入込数		
iv	その他の波及効果		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	御大師堂修繕事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	湯前町歴史的風致形成建造物保全整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
方針	歴史的建造物の維持保全 伝統を反映した人々の活動	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本町の歴史的風致を構成する歴史的建造物は、指定文化財を中心に適正な管理に努めているが、建造物の老朽化は確実に進み、維持保全が困難になりつつある。また、農林業を含め伝統を反映した地域活動は、過疎・少子高齢化や社会環境の変化により全体的に担い手が減少し存続が危ぶまれているものもある。

指定文化財となっている歴史的建造物は、文化財保護法や県・町条例に基づき適切に維持保全する。未指定建造物は、実態調査や所有者協議を行い、歴史的風致形成建造物指定や文化財指定と併せ公開などの積極的活用に向けた支援方を検討する。また、地域の伝統的祭礼行事、民俗芸能が継続的に開催できるよう必要な支援を行うとともに、保存会等の担い手育成等の活動についても支援を進め、映像や文書による保存・記録を推進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	明導寺阿弥陀堂屋根及び九重石塔修繕	九重石塔は修繕済・屋根修理は後年度	有	R1
2	御大師堂修繕・歴史的風致形成建造物保全整備	下里御大師堂保存修理 H28～R4予 下町橋修繕 R1調査・R2設計・R4工事予定	有	H28～R8
3	無形民俗文化財保存継承	伝統芸能保存団体支援 2団体	有	H28～R8
4	郷土学習総合推進	歴史探訪等の生涯学習講座・小中学校での歴史学習・活動	有	H28～R8

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・明導寺阿弥陀堂屋根及び九重石塔修繕

H28熊本地震の被害を受けた九重石塔はR1年度に修理を行った。明導寺阿弥陀堂の茅葺屋根は一部経年劣化が進行しているが、後年度の修理予定としている。

・御大師堂修繕・歴史的風致形成建造物保全整備

R3年度現在、歴史的風致形成建造物の指定は下里御大師堂と石造アーチ橋の下町橋の2件となっている。両建造物とも国庫補助事業を活用しながら修繕等を進めている。

・無形民俗文化財保存継承

東方組太鼓踊りと浅鹿野棒踊り保存会に団体補助金を交付し、活動維持を支援している、また、R3年度よりふるさと納税を財源とし、調査記録を開始している。

・郷土学習総合推進

歴史探訪や日本遺産講座など年数回の生涯学習講座を開催している。小中学校での地域文化財学習や伝統芸能継承活動を継続している。



九重石塔（修理後）



下里御大師堂保存修理



中学生の伝統芸能継承活動

④ 自己評価

文化財指定建造物や歴史的風致形成建造物の維持修繕は国庫補助等を活用し事業を継続実施している。

伝統を反映した地域活動の支援を実施しているが、コロナ影響等もあり活動拡大には至っていない。

⑤ 今後の対応

引き続き歴史的建造物の維持保全活用に関する事業等を行っていく。未指定の歴史的風致形成建造物候補で個人所有の建造物においては今後も解体等が進む可能性があり、所有者等との指定協議を進めていく。伝統を反映した地域活動の支援事業を継続することと併せ記録作成や情報発信等事業の推進を図る。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
方針	まちなみと景観形成 歴史的資源を生かした観光振興と情報発信	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本町の歴史的風致に関するまちなみや景観として、明導寺阿弥陀堂等が位置する山間部、市房山神宮里宮神社までの田園部と集落部と大別される。歴史的建造物周辺では地域住民等が行う清掃などにより、良好な景観が保たれているが、未管理の放置竹林等も見られる。歴史的建造物の周辺環境としては、未舗装駐車場や公衆トイレの整備が必要となっている。中心市街地周辺では、多様な外観の建造物や看板等林立しており雑然とした印象がある。また、歴史的資源を生かした観光振興と情報発信での課題としては、案内・説明版の整備や観光案内人の育成、多様な情報発信体制整備が課題となっている。

良好な景観の維持には、官民が相互に協力しながら、規制や事業の両面から良好なまちなみ整備や景観形成を進める必要がある。景観形成に関しては、本計画期間中に景観計画や景観条例の制定を目指し、併せて屋外広告物に関する条例制定も検討を進める。歴史的資源を活かした観光振興と情報発信においては、地域住民等の歴史的資源への認識と意識の向上や地域住民等及び観光客に向けて、パンフやガイドブックなど多様な媒体を活用し、積極的に情報発信を行うことと併せICTの活用を推進する。また、観光案内人等の活動助成や住民団体等と地域住民や民間企業等との連携を促し活動のより一層の推進と新たな展開を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	明導寺阿弥陀堂周辺整備	公衆トイレ新設・人道橋改修他	有	R2～R3
2	里宮通り他道路美装化	H30全体事業計画策定	有	H30～R8
3	湯前町歴史文化情報発信推進	広報誌・町HP記事掲載・Instagram等	有	H29～R8
4	湯前町観光案内人育成	育成等支援事業を継続中 個人9名4団体	有	H27～R4
5	景観行政団体移行・景観計画策定	検討段階・庁内協議・研修会参加等	有	H29～R8

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・明導寺阿弥陀堂周辺整備

R2～3年度に駐車場にトイレを新設し、併せて人道橋と休憩所の改修を実施している。全体的周辺整備を含め文化財保存活用地域計画の策定が課題となっている。

・里宮通り他道路美装化

H30年度の全体事業計画策定の中で道路美装化事業の基本計画を策定したが、事業費が大きく財源確保が課題となっている。

・湯前町歴史文化情報発信推進

湯前町広報や町HPへ積極的に情報掲載を行っている。地域おこし協力隊制度を活用しInstagramによる情報発信などの取り組みを実施している。コロナにより観光入込数での効果測定に影響が発生している。

・湯前町観光案内人育成

観光案内人協会が設立され、コロナ影響もあるが積極的に活動を実施している。

・景観行政団体移行・景観計画策定

R8年度までに団体移行と景観計画策定を目標としている。

利用しやすいトイレに
明導寺阿弥陀堂にトイレを新設

10月28日に「明導寺阿弥陀堂トイレ等整備工事」が完了。トイレを新たに駐車場に作り、休憩所にあったトイレは倉庫に改修。駐車場から明導寺阿弥陀堂(成果寺)にかかると人道橋も改修しました。
総事業費は1499万5682円。企業局リニューアル交付金を活用しました。



建設トイレから水道トイレに

明導寺阿弥陀堂トイレ整備



里宮通り他道路美装化現地調査



観光案内人協会活動

④ 自己評価

まちなみと景観形成では各公共事業において景観配慮を講じている。
観光振興と情報発信では町広報やHP・Instagram等を活用し、幅広い世代・地域からの着目が向上するようにしている。

⑤ 今後の対応

引き続き歴史的建造物等の特性を踏まえたまちなみと景観形成を推進する。
また、歴史的資源を生かした観光振興と情報発信においては、建造物や伝統芸能、地域の伝統活動といった文化財資源の活用を推進する。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
効果	i 歴史まちづくりに関する住民意識の向上		

① 効果の概要

歴史まちづくりに関する住民意識の変化を各種アンケート結果等で波及効果として分析する。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	湯前町第5次総合計画 湯前町第6次総合計画	あり	H23～R2 R3～R9
2	湯前町過疎地域自立促進計画	あり	H28～R2
3	湯前町総合戦略 第2期湯前町総合戦略	あり	H27～R1 R2～R6

③ 効果発現の経緯と成果

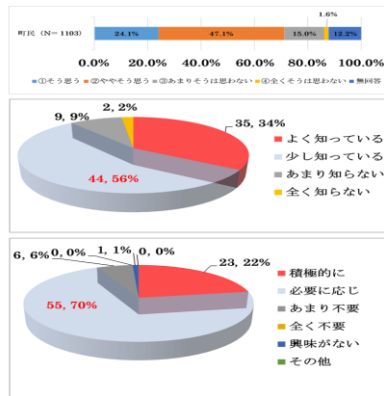
計画初年度のH29アンケートでは「湯前町は文化財の保護や文化振興ができてきているか」の問でそう思う・ややそう思うで71%を占めた。

また、「歴史や文化財、街なみを知っているか」では知っているが89%、「歴史的な街なみ建造物を保全していくこと」では積極的に23%、必要に応じ73%が合計で96%となっている。

日本遺産認定の取り組み開始や歴史的風致維持向上計画の認定等が影響し、住民意識が高まったと評価できる。

H29年度には歴史文化基本構想策定に伴う住民ワークショップ、シンポジウムも開催されている。

R2年度の教育・文化分野の満足度調査では、⑦まんが美術館や図書館などの文化施設整備状況が32%で1位、⑪文化財行政・文化財の保存活用が25%、⑨お祭りの実施状況が満足20%、不満14%となっている。新型コロナの影響により祭礼行事等に中止・制限があり不満度が高まっていると推定される。

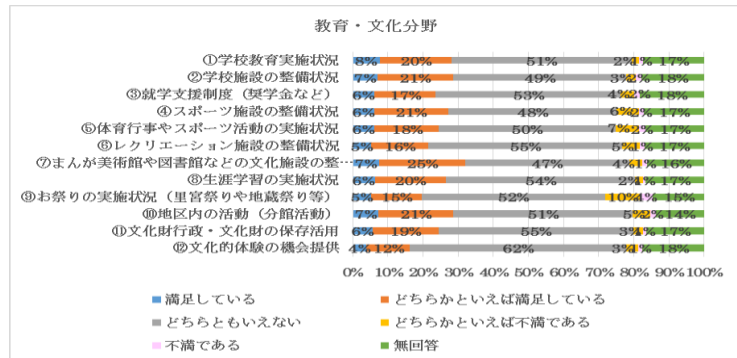


アンケート調査結果（2017年）
 【問：湯前町は文化財の保護や文化の振興ができてきているか】
 回答：そう思う 24.1%
 +ややそう思う 47.1%=71.2%
 【問：湯前町の歴史や文化財、街なみを知っているか】
 回答：よく知っている 34%
 +少し知っている 55%=89%
 【問：歴史的街なみや建造物を保全していくことについて】
 回答：積極的に 23%
 +必要に応じ 73%=96%

歴史まちづくりに関する住民アンケート H29

【教育・文化分野】

全体的に項目ごとの満足度の差が少なかったが、「⑦まんが美術館や図書館などの文化施設の整備状況」が32%と最も満足度が高く、「⑨お祭りの実施状況」の不満度が14%と最も高かった。



歴史まちづくりに関する住民アンケート R2

④ 自己評価

地域住民にとって身近な社寺堂宇や伝統活動等の文化財資源を継続して保存活用するため、小中学校での地域学習や歴史探訪等の生涯学習、建造物の修理事業や周辺整備が昭和期より取り組まれ、住民の文化財保護意識が高く、それらを活用した地域活性化も着目されていると評価する。引き続き日本遺産認定や歴史的風致維持向上計画の策定を進め、歴史まちづくり関連事業が進んでいるが、令和2年度豪雨災害対策やコロナ影響もあり、効果としての住民意識の計測・分析に課題が残る。

⑤ 今後の対応

アンケート項目の統一など効果測定手法の見直しを含め、住民意識の継続的变化を把握していく。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年																								
効果	ii 歴史まちづくりに関する情報発信																										
<p>① 効果の概要</p> <p>歴史まちづくりに関する情報量・内容・影響等を波及効果として分析する。</p>																											
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>湯前町第5次総合計画 湯前町第6次総合計画</td> <td>あり</td> <td>H23～R2 R3～R9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>湯前町過疎地域自立促進計画</td> <td>あり</td> <td>H28～R2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>湯前町総合戦略 第2期湯前町総合戦略</td> <td>あり</td> <td>H27～R1 R2～R6</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	湯前町第5次総合計画 湯前町第6次総合計画	あり	H23～R2 R3～R9	2	湯前町過疎地域自立促進計画	あり	H28～R2	3	湯前町総合戦略 第2期湯前町総合戦略	あり	H27～R1 R2～R6								
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																								
1	湯前町第5次総合計画 湯前町第6次総合計画	あり	H23～R2 R3～R9																								
2	湯前町過疎地域自立促進計画	あり	H28～R2																								
3	湯前町総合戦略 第2期湯前町総合戦略	あり	H27～R1 R2～R6																								
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>効果の指標として町HPの伝統芸能動画ページへのアクセス数をカウントしていたがR1年度のHPリニューアルに伴い、現在カウントできない状態となっている。</p> <p>湯前町発行の『広報ゆのまえ』は月1回の年間12号を発行している。祭礼行事や伝統芸能活動に関する記事などを掲載している。H29年度より「文化のタカラ」をシリーズ化で毎号掲載していたがR2年度より「ゆのまえの文化遺産を訪ねて」に変化し記事は充実している。</p> <p>H29年度には湯前町歴史文化基本構想を策定し、翌H30年度には『2019湯前の文化財』を300部増刷し情報発信の拡充を図った。</p> <p>令和2年7月豪雨災害や新型コロナ影響といった突発的な外部要因もあり、総体的には情報発信が低下しているといえる。</p> <div style="text-align: right;"> <p>歴史まちづくり関連情報発信等件数</p> </div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目・年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>湯前町HP伝統芸能ページアクセス数 (単位:百件)</td> <td>24.71</td> <td>15.55</td> <td>22.67</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>広報ゆのまえの歴史文化関連記事掲載件数</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>湯前町歴史的風致に関する新聞報道等件数</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>23</td> <td>8</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>歴史まちづくりに関するHPアクセス・広報掲載・新聞報道件数推移 H29～R3</p>				項目・年度	H29	H30	R1	R2	R3	湯前町HP伝統芸能ページアクセス数 (単位:百件)	24.71	15.55	22.67	-	-	広報ゆのまえの歴史文化関連記事掲載件数	29	28	15	16	5	湯前町歴史的風致に関する新聞報道等件数	26	26	23	8	14
項目・年度	H29	H30	R1	R2	R3																						
湯前町HP伝統芸能ページアクセス数 (単位:百件)	24.71	15.55	22.67	-	-																						
広報ゆのまえの歴史文化関連記事掲載件数	29	28	15	16	5																						
湯前町歴史的風致に関する新聞報道等件数	26	26	23	8	14																						
<p>④ 自己評価</p> <p>近年、日本遺産認定や歴史的風致維持向上計画の認定、歴史文化基本構想の策定等を通じ、情報発信の拡充を進め歴史まちづくり関連事業を進めているが、令和2年度豪雨災害やコロナ影響もあり情報発信の量・質や手法などPDCAサイクルの構築が課題となっている。</p>																											
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>近年の取り組みとして地域おこし協力隊制度を活用したSNSでの情報発信などを行っており、引き続き歴史まちづくりの情報発信を図っていく。湯前町HPアクセス数の分析は項目を整理したうえで再開する。</p>																											

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
効果	iii 歴史まちづくりに関する観光入込数		

① 効果の概要

歴史まちづくりに関する観光入込数を波及効果として分析する。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	湯前町第5次総合計画 湯前町第6次総合計画	あり	H23～R2 R3～R9
2	湯前町過疎地域自立促進計画	あり	H28～R2
3	湯前町総合戦略 第2期湯前町総合戦略	あり	H27～R1 R2～R6

③ 効果発現の経緯と成果

○ 観光入込客数（総数）

平成27年度実績 171,567 人
 平成28年度実績 247,926 人（前年比44.5%増）
 平成29年度実績 201,405 人（前年比18.8%減）
 平成30年度実績 206,880 人（前年比2.7%増）
 令和元年度実績 175,194 人（前年比15.3%減）
 令和2年度実績 90,840 人（前年比48.1%減）

○ 観光案内人登録者数

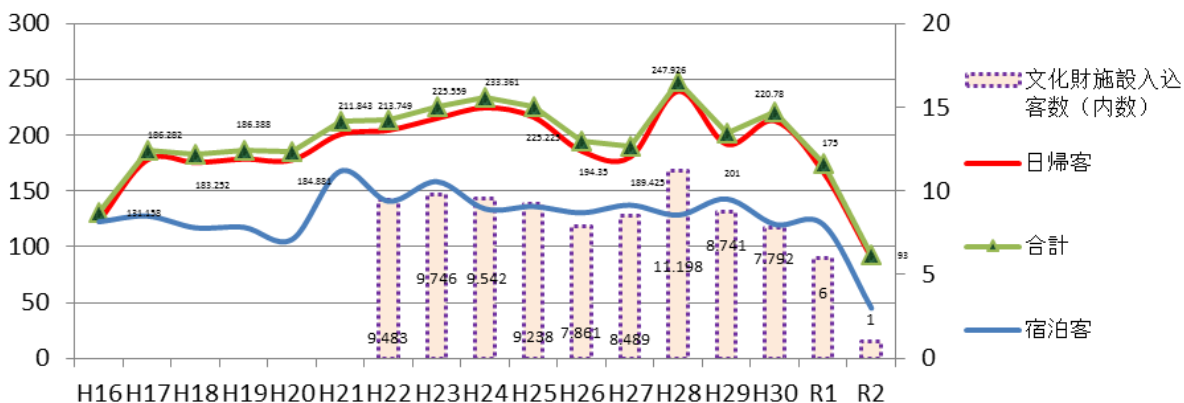
平成28年度実績 8 人
 平成29年度実績 10 人（前年比25%増）
 平成30年度実績 13 人（前年比30%増）
 令和元年度実績 13 人（前年比0%）
 令和2年度実績 13 人（前年比0%）

○ イベント関連客数

平成27年度実績 30,007 人
 平成28年度実績 29,697 人（前年比1.0%減）
 平成29年度実績 28,628 人（前年比3.6%減）
 平成30年度実績 20,135 人（前年比29.7%減）
 令和元年度実績 18,026 人（前年比10.5%減）
 令和2年度実績 0 人（前年比100%減）

○ 歴史文化施設入込客数

平成27年度実績 8,489 人
 平成28年度実績 11,198 人（前年比31.9%増）
 平成29年度実績 8,744 人（前年比21.9%減）
 平成30年度実績 7,792 人（前年比10.9%減）
 令和元年度実績 6,180 人（前年比20.7%減）
 令和2年度実績 1,043 人（前年比83.0%減）



観光入込数及び観光案内人登録者数の推移 H29～R3

④ 自己評価

観光入込客数はH28熊本地震の影響で上昇傾向から下降傾向に移行し、令和2年度豪雨災害やコロナ影響もあり大幅な落ち込みを見せている。

⑤ 今後の対応

歴史まちづくりの取り組みと併せ、With・Afterコロナを踏まえた観光振興施策を図るとともに、観光入込客数のみでの評価からICT活用なども取り入れ移住定住の促進や関係人口の増大など多面的事業展開と指標見直しを図る。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
効果	iv その他の波及効果		

① 効果の概要

歴史まちづくりに関し民間団体の取り組みなど計画外の事業等をその他の波及効果とする。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度

③ 効果発現の経緯と成果

H28年度 幸野溝が世界かんがい遺産に登録

H29年度 町指定文化財「御大師堂」から熊本県指定文化財「下里御大師堂附厨子」へ

H30年度 空き家となっていた江戸期の古民家が地域集会場として活用される
明導寺阿弥陀堂において東京藝術大学院生による仏像模刻活動が行われる
湯前駅本屋前の明治期の旅館が改修される

R1年度 市房山神宮里宮神社において、軽巡洋艦球磨に関する資料館が開館される

R2年度 下里御大師堂の保存修理に伴い熊本県指定文化財(彫刻)木造弘法大師坐像の修理に管理団体の下里地区が取り組む



駅前旧旅館の修理



みんなで集まり「おしゃべり」できる温かな場所



古民家活用の広報記事



里宮神社の資料館



④ 自己評価

歴史まちづくりを進める中で、歴史文化資源を活用した民間活動が行われている。

⑤ 今後の対応

地域住民の自発的取り組みを誘引すると共に必要に応じて連携や支援を行っていく。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
取り組み	A 御大師堂修繕事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>下里御大師堂は熊本県指定文化財で、茅葺き屋根の堂である。この茅葺き屋根は平成16年に地域住民の参画のもと修繕がなされているが、10年以上経過し全体的に劣化が進行しているため、歴史的風致形成建造物に指定し修繕を行う。また、隣接する休憩所の改築や公園施設など一体的な周辺整備に取り組む。</p> <p>H28年度 御大師堂周辺整備基本計画策定（町単独事業） H30年度 埋蔵文化財調査（街なみ環境整備事業） R1年度 下里御大師堂保存修理工事基本設計業務 R2年度 下里御大師堂保存修理工事・設計監理（第1期） R3年度 下里御大師堂保存修理工事・設計監理（第2期）</p>		 <p>御大師堂（2017年）</p>  <p>写真1 保存棟、未修繕の状況完了 写真2 茅葺きの解体 写真3 茅の解体後の状況 写真4 梁木、マツカの解体後 写真5 小梁組の解体後 写真6 北懸梁木、跡木の解体後 写真7 軸組みの解体状況 写真8 軸組みの解体後の基礎の状況 写真9 礎石の解体状況</p>	
 <p>湯前小学校生徒の発掘作業体験</p>  <p>工事見学会の様子</p>			
<p>② 自己評価</p> <p>御大師堂は文化財指定名称“下里御大師堂附厨子”で湯前町中心市街地部に位置する。17世紀中頃に建立されたと考えられ、堂内には1400年制作の弘法大師坐像をはじめ、中世に制作された厨子須弥壇が揃い、それらが総合的に評価されH29年度に熊本県指定文化財に指定された。</p> <p>建造物の損傷は歴史的風致維持向上計画策定前より指摘があり修繕事業が課題となっていたが、H28熊本地震により建物本体の沈下・傾斜が見られ修繕が急務となっていた。そのような中、日本遺産構成文化財認定や歴史的風致維持向上計画の認定なども含め総合的に修理事業の機運が高まりH30年度の周辺区域を含めた埋蔵文化財調査をはじめ修理事業に着手することができた。</p> <p>R3年度中には本体の解体保存修理で軸組までが完成し、R4年度には保存修理を終え、休憩所や公園化等の付帯施設事業を計画している。また、修理事業にあたっては、小学生の埋蔵文化財調査体験や保存修理工事の見学会などを開催し事業公開を進めている。</p> <p>R3年度には建物に付随する下里区が所有者（管理者）の熊本県指定文化財木造弘法大師坐像の修理事業に、熊本県等の補助事業を活用しての着手があり複合的な取り組みとなっている。</p>			
<p>外部有識者名</p>		<p>湯前町歴史的風致維持向上協議会</p>	
<p>外部評価実施日</p>		<p>令和4年2月3～18日（書面実施）</p>	
<p>③ 有識者コメント</p> <p>（桂委員）有識者委員会の意見交換を踏まえ、歴史的建造物の価値を損なうことがない将来の維持管理を見据えた構造や防災などを含めた総合的な保存修理工事が着実に遂行されている。小学生の現場体験や見学会の開催は将来にわたる住民意識向上に非常に有効な企画だと思われる。付随して工事着手する隣接休憩所や公園整備計画も連携が図られていることが確認された。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>歴史的風致形成建造物の修理事業等においては、有識者の現地指導、意見聴取など適切な事業執行体制を維持する。</p>			

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
取り組み	B 湯前町歴史的風致形成建造物保全整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>湯前町歴史的風致形成建造物保全整備事業は、指定方針に基づき、指定を行った建造物において、歴史的風致の維持及び向上を図る上で必要と認められる改修時の支援等を行う事業で、指定候補31件となっている。</p> <p>R3年度時点の指定は前項の下里御大師堂と町が管理する下町橋の2件となっている。</p> <p>下町橋においては町道路橋となっており定期点検に基づき補修が必要となっている。令和2年7月豪雨の影響も受けており現在通行止の措置をとっているが、H30年度より国土交通省を交えての専門家調査、補修設計を実施しており、R4年度に補修工事を予定している。</p>		 <p>下町橋 (M39架設石造単一アーチ橋)</p>  <p>専門家との合同調査状況</p>  <p>歴史的風致形成建造物（指定候補）</p>  <p>下町橋（補修設計資料）</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>事業全体的には地区管理や個人所有の建造物が指定候補となっており、支援体制の未確立も含め指定件数は伸びていないといえる。現在実施をしている歴史的風致形成建造物保全整備事業の事業費が大きく、財政面での支援が現段階では困難なことが主要因であり、付随して指定制度の周知説明や所有者等との協議といった活動が不足している。</p> <p>御大師堂修繕事業と下町橋補修事業はR4～5年度に完了を予定しており、財政面での調整を行った上、支援制度の構築等を図っていく。</p>			
<p>外部有識者名</p>		<p>湯前町歴史的風致維持向上協議会</p>	
<p>外部評価実施日</p>		<p>令和4年2月3～18日（書面実施）</p>	
<p>③ 有識者コメント</p> <p>○（溝下委員）今後、普門寺観音堂や宝陀寺観音堂なども形成建造物に指定して修理が望まれる。</p> <p>○（桂委員）民間の指定歴史的風致形成建造物については、具体的修復工事に至るまで、定期的な現況調査や意見交換会等を継続的に行うことで風致地区形成の意識が維持され続けることが重要である。</p> <p>○（桂委員）下町橋の補修工事においては、欄干部分をガードレールではなく原型の石造に近いかたちで復元することなど、工事費を勘案しながら検討することが望まれる。</p> <p>○（林委員）下町橋について、定期点検の結果は残念。現在通行止になっているが、歩いている人・自転車で通る人以外で困っている人はあまりいない様。道も狭いので人が通れる位の端にしたらいいのでは。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>普門寺観音堂と宝陀寺観音堂は歴史的風致形成建造物の指定候補となっている。R3年度に指定文化財の町補助要項を策定し、歴史的風致形成建造物の指定推進と財政面の調整、所有者（管理者）に対する制度説明等を図る。下町橋の補修については代替橋梁の架け替え等も検討したが、道路構造（線形）や経済比較等により現橋梁の補修が適切であると判断している。</p>			

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	1 里宮神社の祭礼行事に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の維持保全・伝統を反映した人々の活動 II まちなみと景観形成・歴史的資源を活用した観光振興と情報発信		

① 歴史的風致の概要

市房山神宮里宮神社は湯前城跡に建つ神社で、創建は昭和9年（1934）であるが、由緒は16世紀に遡（さかのぼ）り、歴代の相良家当主をはじめ、領民からひろく信仰を集め、春と秋の大祭をはじめとする祭礼行事が行われている。

こうした祭礼行事では、町内を神輿が練り歩き、球磨神楽や臼太鼓踊り、棒踊りといった伝統芸能が奉納されている。町内各地で行われている社寺堂宇に関する祭礼行事の中でも、春秋に開催される祭礼は人びとの心のよりどころとして地域に欠かせない存在となっている。

② 維持向上の経緯と成果

本風致を構成する歴史的建造物は、市房山神宮里宮神社をはじめ町内各所に所在する明導寺本堂などの仏教文化や信仰に所以する堂宇、重要文化財の明導寺阿弥陀堂・八勝寺阿弥陀堂など多数の建造物がある。また、活動としては社寺堂宇に関する祭礼行事、球磨神楽、東方組太鼓踊り、浅鹿野棒踊りといった無形民俗文化財指定の住民主体の活動としている。

町全般において過疎・少子高齢化といった人口減少課題があり、建造物や活動の維持継続が懸念されているが、地域住民の活動は根強く持続発展に向けて各種の取り組みが行われている。特に祭礼行事においては湯前町青年団、伝統芸能の継承では湯前中学生を含めた地域学校協働活動などにより、地域文化的資源の学習の場として機能している。

市房山神宮里宮神社においては、景観向上のための紅葉樹植栽や歴史資料の展示施設開館、アニメとのコラボ事業など複合的に交流人口の増加を図っている。また、他の建造物や活動においても、お寺マルシェの開催やSNS活用による情報発信が行われおり、広域的な「人吉球磨観光地域づくり協議会」等の活動もはじまるなど関係人口の広がりを見せている。



H28（計画策定時）



ライトアップ事業の様子



中学生伝統芸能継承活動 R3

③ 自己評価

地域住民の主体的活動により歴史的建造物や関係活動の維持向上が図られている。湯前町としては、団体補助金や情報発信などソフト面での間接支援を主体として関係事業を行っている。

近年は地域おこし協力隊による情報発信強化等も行っているが、R1年度から続く新型コロナウイルスの影響により、行事開催等に課題が生じている。

④ 今後の対応

関係する歴史的建造物の維持保全や伝統を反映した人々の活動の継続を図るため、各種支援策等を講じ歴史的風致の維持向上を図っていく。併せて、まちなみと景観形成及び歴史的資源を生かした観光振興と情報発信を町が主体となって取り組みを進める。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	2 相良三十三観音巡りに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の維持保全・伝統を反映した人々の活動 II まちなみと景観形成・歴史的資源を活用した観光振興と情報発信		

① 歴史的風致の概要

相良三十三観音巡りは、江戸時代にはじまったと伝えられる巡礼で、球磨地域にある33箇所の霊場では、春と秋の彼岸に全札所のご開帳が行われる。このうち、本町には3箇所の札所があり、ご開帳の折には、地域住民は「お接待」で参拝者をもてなし、参拝者は白衣姿で「御詠歌」（ごえいか）を詠む。こうした光景は、球磨地域に本格的な季節（春と秋）の訪れを告げるものとして、その情趣を今に伝える。

また、地域住民は札所の管理に長年携わっているほか、住民相互に他の札所を訪れるなどしており、札所は地域と人々の交流を深める場となっている。

② 維持向上の経緯と成果

本風致を構成する歴史的建造物は町内3か所の観音堂（宝陀寺・上里・普門寺）と春秋の彼岸の日に開帳される周辺堂宇で構成している。人々の活動としては年間延3～5万人が訪れるといわれる三十三観音巡りとそれをもてなす地域のおせったい活動等としている。

建造物の清掃・通風といった維持管理は周辺地域の住民等が毎月行っており、年1回の旗や鐘紐の奉納も“鐘の織”と呼ばれる集落行事と共に継続している。

H28年度からの相良三十三観音巡り来訪者は全体的に減少しているが（H28：51千人・H29：48千人・H30：44千人）、地域の季節行事として持続をしている。来訪者のおもてなしをする地域のおせったい活動も規模の縮小等がみられるものの継続をしている。



H28（計画策定時）



建造物の維持管理状況 H30



地域住民が行う“おせったい”の様子

③ 自己評価

地域住民の主体的活動により歴史的建造物や関係活動の維持向上が図られている。湯前町としては、団体補助金や建造物の維持修繕の支援といった取り組みを行い、情報発信などソフト面での間接支援も行っている。

R1年度から続く新型コロナウイルスの影響により、行事開催等に課題が生じている。

④ 今後の対応

関係する歴史的建造物の維持保全や伝統を反映した人々の活動の継続を図るため、各種支援策等を講じ歴史的風致の維持向上を図っていく。併せて、まちなみと景観形成及び歴史的資源を生かした観光振興と情報発信を町が主体となって取り組みを進める。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	3 幸野溝と球磨焼酎に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の維持保全・伝統を反映した人々の活動 II まちなみと景観形成・歴史的資源を活用した観光振興と情報発信		

① 歴史的風致の概要

幸野溝は、江戸時代の新田開発に伴って開削されたもので、水害による堰の流失など難工事の末、宝永2年(1705)に完成したかんがい施設である。現在でも、かんがい施設としての利用はもとより、火災の際の水利等としても地域の要となっているほか、受益地では地区毎に農業に関わる祭事等を行う光景を見ることができる。

こうしたかんがい施設の整備で興隆したのが、米を原料とした「球磨焼酎」の醸造であり、球磨焼酎は、今日でも地域の祭礼行事をはじめ、球磨地域における生活の様々な場面で欠かせないものとなっている。

② 維持向上の経緯と成果

本風致を構成する歴史的建造物は町内幹線水路延長7.2kmの幸野溝(関連する社寺・隧道・水路橋等を含む)球磨焼酎の醸造を行う蔵元関連建造物、人々の活動は農業生産活動や農業に関わる集落行事、球磨焼酎の醸造としている。

幸野溝の管理団体は幸野溝土地改良区で、施設の維持管理運営は構成農家等の協力の上、適切に維持されている。計画策定時に取り組みを行っていた周辺環境の景観向上のための防草や植栽なども適切に維持されている。農業従事者の減少・高齢化等に伴う耕作放棄地の増加が懸念されていたが、各種施策により放棄地面積は減少している。さなぼりや火の祈禱、水路へのお供え物などの生活風習も持続している。

球磨焼酎蔵元においても、醸造事業を継続しており江戸・明治から残る関連施設も適切に維持されている。湯前町では、ふるさと納税の返礼品として球磨焼酎を採用しており、広報等と併せ多様な情報発信事業を実施している。

参考HP

幸野溝土地改良区

<http://www.kounomizo.jp/tayori/index.html>

豊永酒造場

<https://toyonagakura.sakura.ne.jp/>

林酒造場(球磨焼酎酒造組合)

<https://kumashochu.or.jp/product/hayashi/>



H28(計画策定時)

③ 自己評価

地域の基幹産業である農業と伝統産業である球磨焼酎醸造は農家・幸野溝土地改良区・蔵元が主体となって綿々と後世へ受け継がれている。幸野溝土地改良区では視察研修事業等も実施しており、今後も事業連携を行っていく。

単位:人

H29	H30	R1	R2	R3
305	417	296	49	未集計

幸野溝土地改良区
視察等人数の推移

④ 今後の対応

関係する歴史的建造物の維持保全や伝統を反映した人々の活動の継続を図るため、各種支援策等を講じ歴史的風致の維持向上を図っていく。併せて、まちなみと景観形成及び歴史的資源を生かした観光振興と情報発信を町が主体となって取り組みを進める。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
------	-----	--------	---------

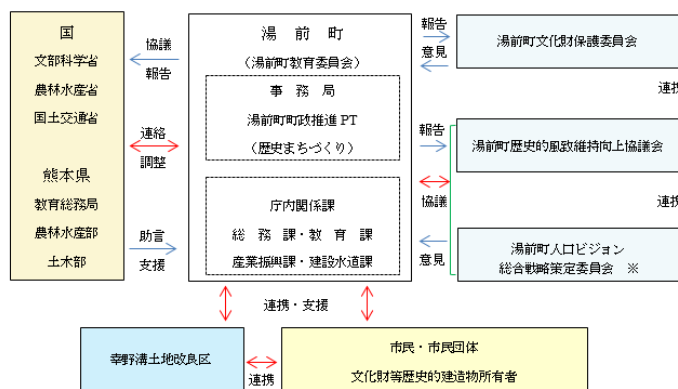
① 庁内組織の体制・変化

H28年度の歴史的風致維持向上計画策定時に総務課・教育課・産業振興課・建設水道課の4課所属職員で構成される庁内プロジェクトチーム（歴史まちづくり）を設置し、計画策定、進捗評価、事業間調整などを行っている。組織改編がありR3現在は総務課・教育課・企画観光課・農林振興課・建設水道課の5課が事業関係課と位置づけされる。

法定協議会関係では建設水道課が事務局となっており、計画書に掲載した各種事業は関係課間で連携を進めながら実施をしている。

近年は、新型コロナウイルス対策や令和2年7月豪雨災害からの復興事業等により、マンパワー・財源不足等の課題があり関係事業の進捗影響が懸念されている。

退職や人事異動といった属人的側面もあるが、引き続き庁内組織間の連携を深め、歴史まちづくりの取り組みを進めていく。



歴史まちづくりの体制（計画策定当初）

会議の様子

② 庁内の意見・評価

・全体

R3年度時点で計画掲載16事業の全てが課内検討も含め着手済となっている。個別の事業では事業内容の遅れも見られるが、歴史的建造物及び地域の伝統的活動も各種事業により維持向上されると認められる。

新型コロナウイルス対策や令和2年7月豪雨災害からの復興事業等の影響も懸念されるが、計画の見直し等も含め引き続き歴史的風致の維持向上を計画的に図っていく。

・総務課

情報発信関係事業では、より広い世代・地域の人に発信できるようSNSの活用等の工夫をしているが、新型コロナの影響による祭事等の中止で発信機会が減少している。

・教育課

教育課所管事業では歴史的建造物の修理や周辺整備事業が進んでいる。伝統的活動に関する事業も近年は新型コロナの影響が見られるが、継続をしている。湯前まんが美術館改修事業は基本計画策定と部分的改修に止まっており事業財源等が課題となっている。

・企画観光課

企画観光課所管事業では令和2年7月豪雨や新型コロナの影響により事業が進んでおらず、観光客数の低迷も懸念される。

・農林振興課

農林振興課所管事業は幸野溝周辺環境整備事業のみであり、管理団体の幸野溝土地改良区が主体となり適切に関係事業が進められている。農林業等の地域産業に係る景観形成も適切に維持されている。

・建設水道課

下町橋補修事業については、3Dレーザーによる測量方法により、詳細に調査することができた。町指定文化財でもあるため、教育委員会等関係各所と調整を行っていく必要がある。

まちなみや景観形成の面では、空き家の増加や新型コロナ影響による中心市街地の空き店舗等の課題化が懸念される。

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
<p>① 住民意見</p> <p>湯前町歴史的風致維持向上計画中間評価（案）パブリックコメント</p> <p>募集期間 令和4年3月7日（月）から令和4年3月25日（金）まで</p> <p>公表資料 湯前町歴史的風致維持向上計画中間評価（案）</p> <p>公表方法 (1) 湯前町ホームページへの掲載 (2) 湯前町役場建設水道課事務室、中央公民館図書室にて閲覧</p> <p>提出された意見 なし</p>			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>特になし</p>			

市町村名	湯前町	評価対象年度	H29～R3年
<p>① 全体の課題</p> <p>P14 庁内の意見・評価記載のとおり</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>P14 庁内の意見・評価記載のとおり</p>			